



専門通訳ボランティア研修プログラム

今月は、地域国際化協会支援事業の一環として当協会が作成した、専門通訳ボランティア研修プログラムの概要について紹介する。

(財)自治体国際化協会調査部連絡調整課



アウトライン

全国の各地域で外国籍住民が年々増加する傾向にあるが、それに伴ってさまざまな分野で通訳者が必要となる場面も増えている。特に、生命や健康にかかわる医療分野において、患者である外国人が医師に症状をうまく説明できなかつたり、どのような治療を行うのか医師が説明できない場合がある。また、外国人児童・生徒の保護者の多くは、簡単な日本語は話せても微妙なニュアンスを理解することが難しく、意味が通じないこともしばしばある。

当協会では、医療及び教育関係通訳ボランティアを養成するための研修のモデル・プログラムを作成した。このプログラムは、受講者に対して医療通訳ボランティア及び教育関係通訳ボランティアとして必要な知識、通訳技術、心得等の学習機会と学習方法を提供し、同ボランティア人材の養成を行うこ

とを目的としている。

プログラムの内容は、次ページ表のとおりだが、研修主催者を地域国際化協会と想定し、相当程度の会話を有する医療通訳・教育関係通訳の初心者を対象としている。一・五時間をユニットとし、医療通訳コースとして六ユニットと二ユニット、一八ユニットの三コース、教育関係通訳コースとして六ユニットと二ユニットの二コースを提示している。

学習手法としては、研修後の自己学習・自発的グループ研修が大切であるので、その土台や機会が作り出せるよう、できる限り参加型学習を取り入れている。



活用方法

このプログラムはいわゆるモデ

ロールプレイ・シナリオの例 (医療通訳ボランティア研修プログラムより)

通訳の立ち位置トレーニング・シナリオ	
○通訳の場の設定を理想型に近づけられるようになること 通訳の場の作り方の理想型・基本型を学び、現実の通訳の場をどうしたら理想型に近づけられるか、その方法を学ぶ。	
シナリオ	指導のポイント
(診療室に入ったときの場面。通訳のいすが医師側に用意されていた。) 医師：通訳さんですか。いやあ、助かりますな。この患者さん、私の言ってることが分かってもらえないんで。さあ、こっちに座って、私の言う通り訳してくださいよ。こっちへどうぞ、どうぞ。 通訳：(参加者が受け答えを考える。) 医師：座る位置くらい、どうということはないでしょう。ここは狭いから、こちら側しかスペースがないんですよ。それに私の側にいてくれないと、私も不安で。 通訳：(参加者が受け答えを考える。) 医師：…そうですね、通訳さんの位置によって患者さんの気持ちがリラックスするというのなら、一番いいところで通訳してください。 (通訳は、適切な位置へ移動する。)	・日本語で進行。 ・医師側に対して上手に受け答えできたか。 ・医師側に対して、通訳の位置の重要性を説明できたか。 ・通訳の位置を適切な場所に移せたか。

ル・プログラムであり、参考事例として提示したものである。実際に研修を行う場合には、各地域の状況に応じて研修プログラムの事前十分に検討していただきたい(営業目的等不適切な使用は禁止している)。



作成にあたって

このプログラムを作成するにあたり、医療通訳ボランティア派遣に携わっている方、医師、教員、教育委員会関係者で構成された専門通訳ボランティア研修プログラム検討委員会を設置するとともに、作成作業を(特活)MIC かながわへ委託した。このプログラムが、各地域の多文化共生の一助になれば幸いである。

【問い合わせ先】

(財)自治体国際化協会調査部
連絡調整課

〇三・三五九一・五四八五

教育関係通訳ボランティア研修プログラム 12ユニットコース

ユニット 1	多文化共生に関する考え方を学ぶ (1) 多国籍住民の方々の置かれている厳しい現状と課題の概要に関する知識を身につけること (2) 多文化共生に関する考え方を理解し、身につけること
ユニット 2	基礎的な通訳技術を学ぶ① (1) 相手との信頼関係の確立方法を身につけること (2) 通訳時の必需品に関する知識と活用方法を身につけること
ユニット 3	基礎的な通訳技術を学ぶ② (1) 事前準備の徹底 (2) 正確な通訳のための基本事項の理解 (3) 会話整理の基本を身につけること (4) 会話の語調・格調合わせ
ユニット 4	基礎的な通訳技術を学ぶ③ ユニット3で学んだ事項を、ロールプレイを通して実践的に学び、基礎的な通訳技術を身につける
ユニット 5	通訳者の心得を学ぶ (1) 守秘義務の厳守 (2) 中立性の確保 (3) 自分の立場を明確にすること (4) 依頼者と個人的な関係を持たないこと (5) 依頼者が通訳者に依存する関係を作らないこと
ユニット 6	通訳者の自己管理を学ぶ (1) 通訳業務とプライバシーの切り替え (2) 自己管理チェックの励行 (3) 通訳者同士の横のつながりの大切さ
ユニット 7	母国、日本の学校生活と子どもの問題を学ぶ (1) 母国、日本の学校生活と学校文化 (2) 子どものアイデンティティ形成に関する知識
ユニット 8	義務教育制度を学ぶ (1) 義務教育制度 (2) 小中学校生活 (3) 就学援助制度
ユニット 9	児童・生徒のトラブル事例を学ぶ (1) トラブルの事例 (2) トラブル発生の背景
ユニット 10	進学・就職に関する制度を学ぶ (1) 中学卒業後の進学と就職 (2) 高校卒業後の進学と就職 (3) 面談に必要な用語
ユニット 11	学校保健制度を学ぶ (1) 学校保健制度の概要 (2) 学校保健制度に関するトラブルの事例
ユニット 12	支援情報の概要を学ぶ (1) 公的機関による支援情報 (2) 民間機関による支援情報

医療通訳ボランティア研修プログラム 12ユニットコース

ユニット 1	多文化共生に関する考え方を学ぶ (1) 多国籍住民の方々の置かれている厳しい現状と課題の概要に関する知識を身につけること (2) 多文化共生に関する考え方を理解し、身につけること
ユニット 2	基礎的な通訳技術を学ぶ① (1) 相手との信頼関係の確立方法を身につけること (2) 通訳時の必需品に関する知識と活用方法を身につけること
ユニット 3	基礎的な通訳技術を学ぶ② (1) 事前準備の徹底 (2) 正確な通訳のための基本事項の理解 (3) 会話整理の基本を身につけること (4) 会話の語調・格調合わせ
ユニット 4	基礎的な通訳技術を学ぶ③ ユニット3で学んだ事項を、ロールプレイを通して実践的に学び、基礎的な通訳技術を身につける
ユニット 5	通訳者の心得を学ぶ (1) 守秘義務の厳守 (2) 中立性の確保 (3) 自分の立場を明確にすること (4) 依頼者と個人的な関係を持たないこと (5) 依頼者が通訳者に依存する関係を作らないこと
ユニット 6	通訳者の自己管理を学ぶ (1) 通訳業務とプライバシーの切り替え (2) 自己管理チェックの励行 (3) 通訳者同士の横のつながりの大切さ
ユニット 7	基礎的な医療知識を学ぶ (1) 一般的な病気・けが・人体・器官・医療用語の学習 (2) 診療場面でよく交わされる会話の学習
ユニット 8	医療制度の基礎を学ぶ (1) 健康保険制度 (2) 公費負担制度
ユニット 9	医療機関のしくみを学ぶ (1) 病院と診療所のしくみ (2) メディカル・ソーシャル・ワーカー (MSW) の機能 (3) 損害賠償責任への対応
ユニット 10	医療通訳実践の基礎を学ぶ① (1) 会話整理、専門用語の言い換え、メモの習慣、用語集の携行 (2) 基礎的な医療用語、人体・器官名、診療場面でよく交わされる会話
ユニット 11	医療通訳実践の基礎を学ぶ② (1) 通訳に徹する技術を学ぶ (2) 時間的余裕の必要性を学ぶ
ユニット 12	医療通訳実践の基礎を学ぶ③ (1) 薬の説明について学ぶ (2) 手術の場合の適正な通訳 (3) 重病宣告の場合の適正な通訳